

授業科目 医療統計学演習

科目コード番号

【担当教員名】 遠藤 和男	対象学年	2～3年	対象学科	理学・作業・言語・栄養・社会
	開講時期	後期	必修・選択	2必・3選・2必・3必・2選
	単位数	1	時間数	15（栄養は3年前期末集中演習）

【概要及び学習目標】

<概略>

医療統計学という厳密な概念はないが、前期で学んだ保健・医療分野でよく用いられる、統計学的指標や検定方法について実例を検討し、一部コンピュータによる学習（CAD：Computer aid Instruction）を採り入れて理解を深め、将来証拠に基づいた医療（EBM：Evidence-based Medicine）にチームとして参加できる基礎を修得する。

<学習目標>

一般目標：将来、証拠に基づいた（Evidence-based）チーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる、各種の指標や統計学的方法を理解し、正しい検定方法を適用できる。

行動目標：1. 医療統計学で学習した、各種の指標や統計学的方法を適用できる。

2. 正しい検定方法を適用できる（1. 及び2. は医療統計学とほぼ同様である）。

3. コンピュータ学習（CAD）に積極的に参加する。

4. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。

回数	学習の主題	学習内容	学習方法
1	アンケート調査のまとめ方	アンケート調査のまとめ方、傾向性の検定やリジット解析を適用する。	演習
2	食中毒の原因究明	食中毒が起こった原因を究明するため、疫学的手法を用いる。特に、EBM（Evidence-based Medicine）で多用するオッズ比を適用する。	演習
3	年齢調整法と死亡原因	標準化死亡比（SMR）によって年齢調整を行い、死因分析を行う。	演習
4	スクリーニングのレベル	スクリーニングのレベルによる敏感度・特異度の変化を理解し、受診者動作特性曲線を描いて最適なモデルについて分析する。	演習
5	分散分析法の初歩	多数の標本平均値の評価方法である、分散分析法の初歩を学ぶ。	講義と演習
6	生命表と生存分析	EBMで多用される生命表指標を理解し、生存分析を適用する。	演習
7	医学的論文と統計学	1クラスを4～5人の小グループに分ける。生データ及び医学的論文の概要を資料として、グループで統計学的に分析し、成果を発表する。	小グループによる演習

【評価方法】

1. ほぼ毎回レポートを提出させる。なるべく時間内に終わらせるようにして、評価して返却する。
2. さらに理解度をみるため、試験期間中に小テストを実施する。

【履修上の留意点】

1. 医療統計学を履修しないで、この演習だけを履修することはできない。前者のみを履修するのは構わない。
2. 健康栄養学科のみ3年次夏休み前に集中的に演習する。4コマ+3コマなら2日間で可能となる。
3. 他学科についてはMLL及び情報処理室を使用し、助手さんの援助を得て2クラス同時に演習する場合がある。

【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	医療統計テキスト	遠藤和男、山本正治	西村書店	1997第3刷 ¥2500+税
参考書				
その他 (プリント等)	毎回レジュメを配布し、一部をレポート用紙として提出する。			